

1 単元構想

本単元で身に付けたい力

自分の考えと理由を明確にして、工夫して書き表す力

言語活動とその特徴

学校で取り組んでいる活動を振り返って学校全体の課題として捉え、自分の考えと理由との関係を明確にした意見文を書いて児童会など自分が伝えたい相手に伝えるという言語活動を設定している。特別活動との関連を図り、児童の身近な話題からの選択、導入時の意見文を書くことの困り感を持たせることで書くことへの意欲を高めることができると考える。また、自分の考えに対して読み手に納得してもらえる理由であるか友達と交流したり、複数回意見文を書いたりすることを通して、自分の書く力の高まりを実感させるとともに自分の考えを明確にして書く力の向上を目指すことができると考える。

教材の特徴

教科書教材は、自分の立場を決め、始め・中・終わりの構成の中に自分の考えとそれを支える理由を記述する意見文となっている。本単元では、学校で取り組んでいる4つの「あ」（あいさつ・あつまり・あとしまつ・あんぜん）の中から、中村小学校をもっとよくするために頑張るとよいことを選び、自分の考えを書く。自分の考えを伝えるためには、読み手に納得してもらえる理由を明確にする必要がある。考えに対する理由を図に表して整理したり、その書き表し方を工夫したりすることで自分の考えと理由との関係を明確にした意見文を書く力をつけることができると考える。

児童の実態

児童は、2年生の「じゅんじょよく書こう」で、始め・中・終わりの組み立てで書くこと、「名人をしょうかいしよう」では、事柄を整理して書くことを学習している。3年生では、7月に「調べて書こうわたしのレポート」で伝えたい内容を明確にし、文章の構成を考えて書くことを学習している。5月の標準学力調査では、書くことの領域で全国平均正答率 54.4%のところクラス平均正答率は64.7%であり上回ってはいるが、経験・想像したことの中から文章を書くことや自分の考えを明確にして具体的に文章を書くことに課題のある児童がいる。

指導観

第一次では、学級会で取り上げた学校で取り組んでいる4つの「あ」について自分の考えを児童会等自分が伝えたい相手に伝えるという目的をもって意見文を書き、書いてみて上手く書けないという困り感を持たせる。また、教師の2つのモデルを比較させ、児童の気づきをもとに学習の見通しを持たせる。第二次では、教師のモデルや教科書教材で意見文の文章構成や書き表し方を学習する。その後、自分の考えに対する理由を考えるために図を活用して付箋に書き出す。さらに組み立てを考えて再度意見文を書く。次に、書いた文章を児童会など伝えたい相手に評価してもらうことで、理由を詳しくすることの必要性を持たせる。そして、理由を詳しくするために再度、図に表したり、友達と交流したりしながら自分の考えに必要な理由を膨らませていく。そして、理由を整理し、組み立てを考えて再度文章を書く。2、3回目の文章に表す際は、組み立てをもとに、どのような言葉を使うとよいか、どのように言葉と言葉をつないでいくと分かりやすく伝わるかななど自分で考えたり、友達と交流したりして、自分の考えを支える理由を明確にしていく。その後、書いた文章を読み手が納得するかという視点で友達と読み合い、推敲する。第三次では、意見文を清書し、友達と感想を伝え合い、本単元の学習を振り返る。児童の意見文は、伝えたい相手に見てもらいたい校内掲示をする。

2 単元の目標及び単元の評価規準

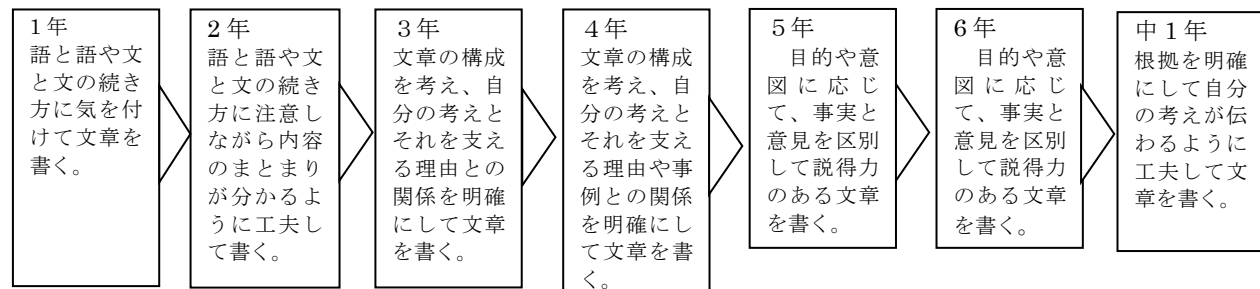
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
考えとそれを支える理由、全体と中心など情報と情報との関係について理解し、使うことができる。(2)ア	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。Bウ	言葉がもつよさに気付くとともに幅広く読書をし、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考えとそれを支える理由、全体と中心など情報と情報との関係について理解し、使っている。(2)ア	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。Bウ	進んで自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にし、伝える相手を考えて工夫して書こうとしている。(自分の思いや経験、想像したことと繋げて適切な言葉を使おうとしている。)

3 単元の系統性



4 研究主題に迫る手立て

研究主題：目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方
—文章の種類や特徴に応じた書き表し方の工夫—

- 自分の考えを支える理由を選んで書くことができるよう意見文に書く理由を図や表等のツールを使って整理したり、友達との対話を通して、考えを深めたり広げたりする。
- 複数回意見文を書く活動を仕組むことにより、児童に文章の構成や考えと理由の関わりに気づかせ、自分の考えを読み手に伝える意見文を書く力を高める。

5 学習の流れ

学習過程	主な学習内容及び学習活動	【 】評価規準・○指導上の留意点	言語活動
学習目的の理解と見通し	<p>①4つの「あ」から選択し、自分の考えを持って意見文を書く。(1回目) 4つの「あ」から選択して書いた教師の2つのモデルを比較し、意見文に必要なことを大まかに捉え、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○中村小学校をもっとよくするために児童会等、自分が伝えたい相手に伝えるという目的を持たせることで自分の考えを伝えたいという気持ちを高めるようにする。【主】 ○まず自分で意見文を書いてみることで、書き方の難しさや学習の必要性を感じさせるようにする。</p>	<p>言葉による見方・考え方の成長</p> <p>中小をもっと良くするために「あいさつ」を頑張ったらいいたいことを4年生に伝えたいな。</p> <p>自分の考えを伝えるためには、どんな理由にしようかな。</p>
理解と表現の螺旋的な学び	<p>②教師のモデルや教科書の「山下さんの文章」をもとに、文章構成や言葉の使い方を理解する。図を使って理由を整理し、組み立てを考える。</p>	<p>○意見文の構成や「順序立てる言葉」「理由を表す言葉」を教科書に線を引ながら捉えるようにする。 ○自分の考えを支える理由の必要性を持ち、マッピングを活用した後、付箋に書き出すようにする。 【知・技(2)ア】</p>	<p>元気なあいさつは気持ちがいいことを4年生に伝えたら分かってくれるかな。</p> <p>相手の目を見てあいさつすることも大切だから理由に入れたらいいんじゃないの。</p>
	<p>③組み立てをもとに、自分の考えとそれを支える理由を入れて再度意見文を書く。(2回目)</p>	<p>○付箋に短くまとめて書いた理由から文章にするためにどのような言葉を書き加えるとよいか友達と交流したり、助言したりする。 ○2回目の意見文を児童会等伝えたい相手に評価してもらうようにする。 ○評価してもらったことをもとに自分の考えを支える理由を詳しくする必要性を持ち、再度マッピングを活用する。最初のマッピングに自分の経験や想像したことを加えて理由を膨らませ、付箋に書き出すようにする。 ○付箋をもとに、読み手に伝わる文章になるよう自分で考えたり、友達と交流したりしながら言葉を付け加えていくようにする。 【思・考・表Bウ】</p>	<p>前に友達が元気な声であいさつをしてくれて嬉しくなったことを入れるともっと伝わるかな。</p> <p>元気なあいさつがみんなに広がるといい学校になるという思いも入れたらいいと思うよ。</p>
表現活動・単元の振り返り	<p>④自分の考えを支える理由を詳しくするために再度、図を使ったり友達と交流したりして整理し、組み立てを考える。</p> <p>⑤組み立てをもとに自分の考えとそれを支えるために詳しくした理由を入れて再度文章を書く。(3回目) 本時5/7</p> <p>⑥書いた文章を読み直し、読み手に伝わるか視点をもって文章を推敲する。</p> <p>⑦文章を清書し、友達と意見文について感想を伝え合う。学習の振り返りをする。</p>	<p>○読み手に納得してもらえる文章になっているか友達と交流しながら見直すようにする。 【思・考・表Bウ】</p> <p>○意見文を読み合い、友達のよさなどをまとめ、この学習で身に付けた力やどんな学習で生かせそうか振り返るようにする。【主】</p>	<p>理由のつぎに、「目を見てあいさつすると、心と心がつながると思います」をつけ足して書くことあいさつのよさがもっと伝わる文章になるかな。</p> <p>伝えたい相手に納得してもらえないかな。もう一度、自分の考えと理由とのつながり確かめてから書いてみよう。</p>

本単元終了時の目指す児童の姿

- 自分の考えを伝えるために、理由を図に表して明確にし、理由を示す表現を用いて意見文を書く姿
- 日常生活及び総合的な学習の時間などの他教科において学んだことを生かそうとする姿

6 本時の学習 (5/7時間)

(1) 目標

文章の組み立てをもとに、自分の考えに必要な理由を明確にして文章を書くことができる。

(2) 展開

学習過程	学習内容及び学習活動	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点 (●) 評価規準及び評価方法 (☆)
学習目的の理解	1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確かめる。 2. めあてを確認する。	めあて 組み立てメモをもとに、自分の考えがもっとあい手に伝わる文章を書こう。	●学習の流れを確認する。
内容及び構成の検討	3. 相手に納得してもらうための工夫を考える。 4. 組み立てメモを使って、自分の考えを支える理由を考える。 (個人) (ペア) (個人)	※理由の中にどんなことを入れると自分の考えが相手によく伝わりますか。 ○自分の思いや経験、想像したことを入れる ※組み立てメモをもとにどんな文章にしていくか考えましょう。 ○あいさつをすると、相手も自分も気持ちよくなるということを伝えるために、自分からあいさつをして、友達があいさつを返してくれて嬉しかったことを入れて書いてみよう。 ○あとしまつをすると次の人が使いやすいということを伝えるために、トイレのスリッパが整頓されていて履きやすかったことを入れてみよう。 ※自分の考えを相手に納得してもらうために工夫して文章を書きましょう。どんな言葉や文章で表すと伝わるかな。 ※書いた文章を友達と読み合ってみましょう。 ※相手に納得してもらうために、理由がどのような文章に変わりましたか。 ○目を見て、あいさつすることが大切だけじゃなく、心と心がつながるとい文章にしました。	●前時の学習を想起することで、理由をさらに詳しくして書いていくことを確認する。 ●友達との交流を通して、付箋に書き加えることを助言する。 ●再度、自分で文章に書く理由を確かめるようにする。 ●適切な言葉が選べるように言葉の宝箱を活用しても良いことを助言する。 ●自分の思いや経験、想像したことをいれたところに線引きして確かめる。 ●自分で考えたり、友達と交流したりすることを通して、相手を納得させる言葉を選び、文章に書き加えていくことを助言したり困っている児童を取り上げて支援したりする。 ☆相手を納得させるために、よりよい言葉を書き加えながら文章に表し理由を明確にしようとしている。【思・判・表 Bウ】(発言・意見文)
表現	5. 組み立てメモをもとに自分の考えを文章に書く。 (個人) (ペア) (全体)		
振り返り	6. 本時の振り返りをする。	○自分の思いを入れると理由がふくらみました。 ○相手に響く言葉を考えて、もっと伝わるように工夫しました。	●2回目に書いた文章の理由と比べて工夫したことを振り返るようにする。

(3) 板書計画

(4) 準備物

教師モデル、組み立てメモ、意見文を書く用紙、付箋

言語活動のモデル

わたしは、これからもっと中小をよくするために、四つの「あ」の中から後しまつをがんばると思っています。その理由は二つあります。一つ目は、校庭にボールが転がったままになっているのを見たからです。使ってそのままになったボールやリンス車を見ると、がんばんな気持ちになります。一人一人が気をつけることが大切だと思います。二つ目は、後しまつをきちんとすること、次の人が使いやすくなるからです。使いやすくと感じると、自分も次の人のために行動しようという気持ちになります。このような理由から、わたしは四つの「あ」の後しまつをがんばるとよいと考えます。